

第7回 小田川付替事業環境影響評価技術検討委員会 (議事要旨)

開催日時：平成25年10月4日(金) 10:00～11:30

場 所：倉敷市民会館

出席委員：

(欠席) 内田 和子(岡山大学 名誉教授)
奥島 雄一(倉敷市立自然史博物館 学芸員)
河原 長美(岡山大学 名誉教授)
笹岡 英司(岡山大学 名誉教授)
佐藤 國康(元川崎医科大学 教授)
西垣 誠(岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授)
波田 善夫(岡山理科大学 学長)
丸山 健司(日本野鳥の会 岡山県支部 支部長)

8名中 7名出席 1名欠席

議事要旨：

1. 委員会の成立について

- ・委員会規約第5条の2に基づき、出席者数が8名中7名であることから、委員会が成立していることを確認した。

2. スケジュールについて

- ・小田川付替事業環境影響評価手続きの概略スケジュールについて、事務局から説明があった。

3. 知事意見への事業者の見解及び評価書の記載事項についての検討

- ・岡山県知事の意見に対する事業者の見解及び評価書の記載事項について、事務局が説明を行い、以下の質疑及び助言がなされた。

【資料2：準備書に対する知事意見への事業者見解(案)】

委 員：資料2のp.11の知事意見に関して、予測条件として、影響が最大となる時期がどういう工事内容の時期なのか等を知りたい人には、求めれば検討過程が示されるのか。

事務局：情報公開はまた別の問題なので、知事意見に対する事業者見解としては現在の記述内容としたい。

委 員：岡山県知事からの意見はたくさん出てきているが、倉敷市からの意見は出てきていないのか。

事務局：倉敷市、総社市及び矢掛町の意見を県がまとめ、知事意見として出してきたものなので、倉敷市のご意見も知事意見の中に入っている。

委員：資料2の p. 21 の知事意見に関して、柳井原貯水池の底質が工事によってどうなるのかという一般的懸念があることは理解できる。しかし、河川等の底質については、それを明確な対象とする有効な法令がないのが現状である。よって、底質に関しては、事業により覆土していくという趣旨を事業者見解に加味した表現にならないか。

事務局：検討する。

委員：資料2の p. 22 の温室効果ガスに関して、事業者見解はこれでよいが、想定される発生量の程度は、数値としては持っておくべきである。工事の有り無しによる違いを比較するもので、手法は2つあって、1つは、岡山県の現況値に対してどれくらい負荷量があるかをみるもの、2つ目は、小田川付替事業の有り無しによる洪水被害の違いから比較するもの。ただし、後者は無理だと思われる。

事務局：簡便な手法で手持ちデータとして持っておくこととしたい。

【資料3：評価書（案）作成に当たっての準備書記載事項との相違の概要】

委員：資料3の p. 9-27 の1行目で、後カッコを追加している訂正だが、対になる前カッコがないのではないか。

事務局：前カッコは、この抜粋部分の前にあるので、抜粋の仕方を修正したい。

【まとめ】

委員長：準備書に対する知事意見への事業者見解（案）及び評価書（案）作成に当たっての準備書記載事項との相違の概要を確認の上、本委員会での指摘事項による検討部分を除き、本日の資料に示された方針により評価書を作成していくということで了承されるか。

委員：了承する。

以 上